

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3147907号
(U3147907)

(45) 発行日 平成21年1月29日(2009.1.29)

(24) 登録日 平成21年1月7日(2009.1.7)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 7 G 9/10 (2006.01) A 4 7 G 9/10 M

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2008-6111 (U2008-6111)
(22) 出願日 平成20年8月29日(2008.8.29)(73) 実用新案権者 505038944
山崎 日出明
千葉県佐原市佐原イ 4 4 6
(74) 代理人 100091225
弁理士 仲野 均
(74) 代理人 100096655
弁理士 川井 隆
(72) 考案者 山崎 日出明
千葉県佐原市佐原イ 4 4 6

(54) 【考案の名称】 高さ調節が可能な枕

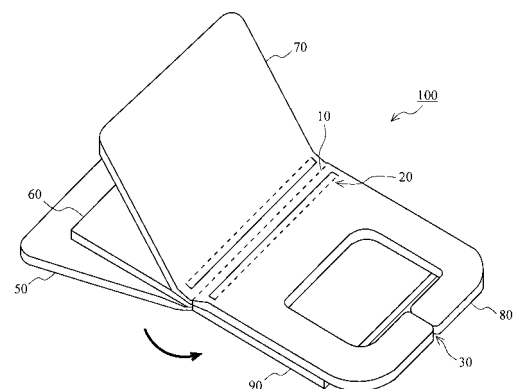
(57) 【要約】

【課題】 高さをファスナーの開閉無しに、簡単にある程度調節をすることのできる枕を提供すること。

【解決手段】 枕100は、形状の異なる（3種類の形状で角が丸みを帯びた形状2個、長方形2個、U字型1個）計5個の枕から成り、同一長さの辺で縫合部10によって縫い合わされ、この1辺を基点にして放射状に一体化されている。形状の異なる5個の枕から成るので、各個人の好みに合わせて、U字型と長方形、U字型と丸み形、長方形と丸み形等のように組み合わせて使用できる。これらの5個の枕100は、縫合部10で、1辺を基点にして放射状に一体化しており、利用者が使用したり、持ち運んだりする際扱い易くなっている。

【選択図】 図1

【図1】



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

各々が同一長さの直線上の辺を少なくとも 1 辺有する複数個の枕から成り、縫合部を中心に放射状に各枕が位置するように、前記各枕が同一長さの 1 辺で縫合されており、

且つ、前記各枕が各々取り外し可能なカバーによって覆われていることを特徴とする高さ調節が可能な枕。

【請求項 2】

前記複数個の枕は、各々形状の相違する枕を組み合わせることを特徴とする請求項 1 記載の高さ調節が可能な枕。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、簡単に高さを調節することのできる枕に関する。

【背景技術】**【0002】**

枕は、人が睡眠する際に、敷き布団と頭部・頸部の間の隙間を埋めるものとして、昔から広く使用されてきている。人が睡眠する時は、楽な姿勢を保つ為に、脊柱の S 字型のカーブの基点となる頸部を支える枕が必要となる。首の角度については医学的に好ましいとされる角度が発表されている。

また、各人により、枕の高さに関しては好みがあり、さらに、睡眠の質を落とさない為にも、個々の嗜好や体型等に合った枕を使用することが望ましい。

そこで、高さ調節が可能な枕が種々提案されてきた。例えば、特許文献 1 は、上下に重なり合う使用状態と横 1 列に並ぶ展開状態とに連結した複数の枕体から成り、高さ調節を行うものが開示されている。

【特許文献 1】登録実用新案第 3052901 号**【考案の開示】****【考案が解決しようとする課題】****【0003】**

ところで、特許文献 1 記載の技術では、高さ調節を行う際にファスナーの開閉が必要になるなど、使用時に面倒な処理が必要であった。

そこで、本考案の目的は、高さをファスナーの開閉無しに、簡単にある程度調節することのできる枕を提供することである。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

請求項 1 記載の発明では、各々が同一長さの直線上の辺を少なくとも 1 辺有する複数個の枕から成り、縫合部を中心に放射状に各枕が位置するように、前記各枕が同一長さの 1 辺で縫合されており、且つ、前記各枕が各々取り外し可能なカバーによって覆われていることを特徴とする。

請求項 2 記載の発明では、請求項 1 記載の考案において、前記複数個の枕は、各々形状の相違する枕を組み合わせることを特徴とする。

【考案の効果】**【0005】**

本考案では、枕の高さを複数段に設定できるので、1 個で万人に使用可能となる。また、角度も自在に設定できるので、利用者各々に合った角度で枕を使用でき、結果として、首への負担を軽減し、血行に良く、快適な安眠を提供できる。

【考案を実施するための最良の形態】**【0006】**

本考案の好適な実施の形態を図 1～図 4 を参照して、詳細に説明する。

図 1 は、第 1 の実施例を示した図である。この高さ調節が可能な枕 100 は、形状の異

10

20

30

40

50

なる（３種類の形状で角が丸みを帯びた形状２個、長方形２個、Ｕ字型１個）計５個の枕から成り、同一長さの辺で縫合部１０によって縫い合わされ、この１辺を基点にして放射状に一体化されている。

枕５０と７０は、角が丸みを帯びている。枕６０と９０は、長方形の形状になっている。枕８０はＵ字型の形状であり、Ｕ字型の枕の分離可能な部分３０は、使用時には接触しているが分離することも可能となっている。

形状の異なる５個の枕から成るので、各個人の好みに合わせて、Ｕ字型と長方形、Ｕ字型と丸み形、長方形と丸み形等のように組み合わせ使用できる。

これらの５個の枕１００は、縫合部１０で、１辺を基点にして放射状に一体化しており、利用者が使用したり、持ち運んだりする際扱い易くなっている。

縫い合わされている各枕５０、６０、７０、８０及び９０は、個々に取り外しできないが、カバーは、ファスナー部分２０の一方部を残し、５枚各々取り外し可能となっている。そのため、汚れた場合は、そのカバーのみをクリーニングすることができる。

連なっている各枕の材質は、例えば、低反発素材、そば殻、プラスチックの何れかまたは複数のものを組み合わせ使用できるようになっている。

【０００７】

図２は、縫合部１０で連なっている５個の枕５０、６０、７０、８０、９０のうちのＵ字型の枕８０を示している。カバーの内部には、枕本体１５が縫合部１０で他の枕５０、６０、７０及び９０と縫い合わさっている。他の枕５０、６０、７０、９０と同様に、ファスナー部分２０を備えており、このファスナー部分２０を開くと、カバーを取り外すことができる。

Ｕ字型の枕の分離可能な部分３０は使用時には接触しているが分離することも可能となっており、また、Ｕ字型の枕の空洞部分４０は空洞になっていて頭を載置することができる。さらに、空洞部分４０は、分離可能な部分３０から首を入れて、周囲のＵ字型の枕部分を首に巻くことも可能である。例えば、冬場の就寝時に、首や肩周りに感じる肌寒さや冷えを、この周囲のＵ字型の枕部分を首に巻くという利用方法で防ぐことができる。この実施例では、各個人の好みに合わせてＵ字型の枕の利用の有無が選択できる。

【０００８】

図３は、枕の使用状態の１例である。縫合部１０で連なっている５個の枕５０、６０、７０、８０、９０を、各個人の好みに合わせて、何れかまたは複数に組み合わせ使用できるようになっている。縫合部１０を敷き布団１５０の端部に合わせて置くことで、使用しない部分は敷き布団１５０の外側に置くことができ、使用しない枕が睡眠の妨げにならないようになっている。使用する際はめくって重ねたり、敷き布団１５０の外側に置くようにして、簡単に高さ調節ができるようになっている。

【０００９】

図４は、第２の実施例を示した図である。この高さ調節が可能な枕１００ａは、形状が同じ（４個共長方形）計４個の枕から成り、同一長さの辺で縫合部１０ａによって縫い合わされ、この１辺を基点にして放射状に一体化されている。

４個の枕から成るので、各個人の好みに合わせて、めくって重ねたり敷き布団１５０の外側に置くようにして眠りを妨げず簡単に使用できる。

枕６１、６２、６３、６４は、全てが同じ長方形の形になっており、図１の枕６０、９０よりは、部分９１の長さが長めになっており、大きめの枕になっている。

縫合部１０ａは、枕４個が全て縫い合わされており、枕は取り外しできないが、カバーはファスナー部分２０ａの一方部を残し、枕を覆っている部分が取り外し可能となっている。カバーは４枚各々取り外すことが可能であり、洗濯することができる。

連なっている枕の材質は、低反発素材である。

【００１０】

その他の実施例として、枕の全個数を例えば２、３個などとして、数を減らした枕も可能である。一方で、枕の全個数を６個以上にし、且つ１枚１枚の厚さを薄くすることによる高さの微調整をできるようにしてもよい。

10

20

30

40

50

並びに、枕を丸み形、長方形、U字型以外の形状に変更することによって高さの調整をできるようにしてもよい。

また、枕の内容物の材質を低反発素材、そば殻、プラスチック以外の物等によって、硬さの調節をして、各個人の好み（かため、やわらかめ、普通など）に合わせることもできる。

さらに、カバーの素材を、丈夫な綿以外にも、タオル地など吸水性の高い物、絹など感触の良い物などにして、各個人の好みに合わせることもできる。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】第1の実施例で、連なっている5個の枕全体を示した説明図である。

10

【図2】5個の枕のうちのU字型の枕を示した説明図である。

【図3】枕の使用状態の1例を示した説明図である。

【図4】第2の実施例を示した説明図である。

【符号の説明】

【0012】

100 高さ調節が可能な枕

10 縫合部（5個連なりの枕）

50、70 丸み形の枕

60、90 長方形の枕

80 U字型の枕

20

30 U字型の枕の分離可能な部分

20 ファスナー部分（5個連なりの枕）

15 枕本体

40 U字型の枕の空洞部分

150 敷き布団

100a 高さ調節が可能な枕

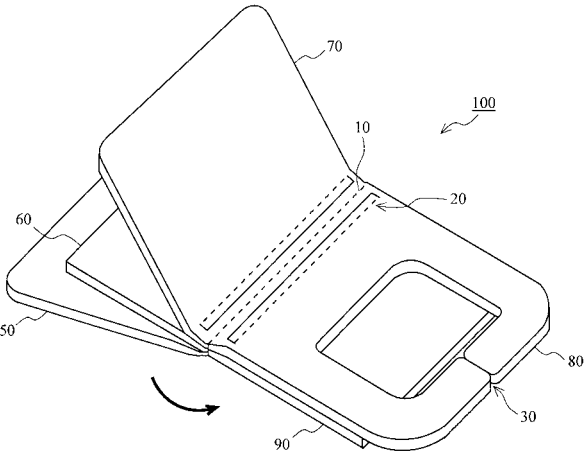
10a 縫合部（4個連なりの枕）

61、62、63、64 長方形の大きめ（枕60、90と比較）の枕

20a ファスナー部分（4個連なりの枕）

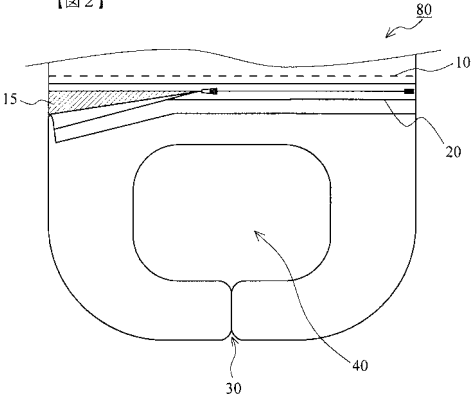
【図 1】

【図 1】



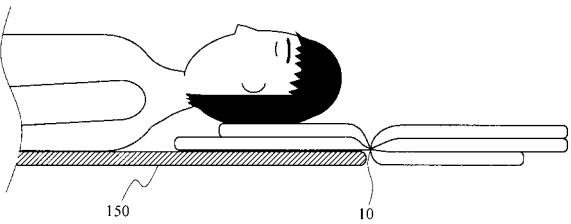
【図 2】

【図 2】



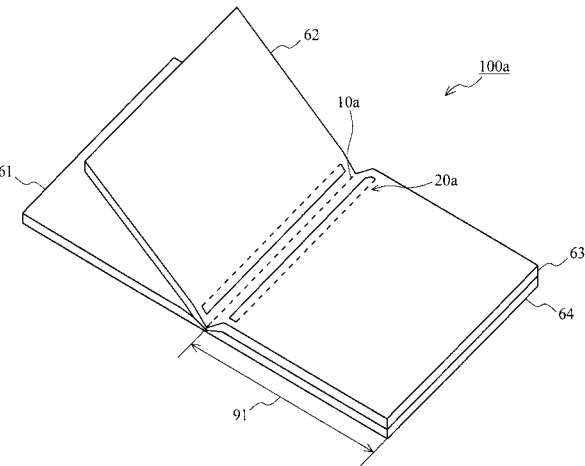
【図 3】

【図 3】



【図 4】

【図 4】



【手続補正書】

【提出日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

複数個の枕から成り、

前記複数個の枕が共有する 1 辺を有し、該 1 辺は同一長さの直線であり、前記共有する 1 辺で前記複数個の枕は縫合されており、縫合されている該 1 辺を縫合部とし、前記縫合部である 1 辺を基点にして前記複数個の枕は放射状に一体化されており、

且つ、前記複数個の枕が各々取り外し可能なカバーによって覆われていることを特徴とする高さ調節が可能な枕。

【請求項 2】

前記複数個の枕は、各々形状の相違する枕を組み合わせて成ることを特徴とする請求項 1 記載の高さ調節が可能な枕。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

請求項 1 記載の発明では、複数個の枕から成り、前記複数個の枕が共有する 1 辺を有し、該 1 辺は同一長さの直線であり、前記共有する 1 辺で前記複数個の枕は縫合されており、縫合されている該 1 辺を縫合部とし、前記縫合部である 1 辺を基点にして前記複数個の枕は放射状に一体化されており、且つ、前記複数個の枕が各々取り外し可能なカバーによって覆われていることを特徴とする。

請求項 2 記載の発明では、請求項 1 記載の考案において、前記複数個の枕は、各々形状の相違する枕を組み合わせて成ることを特徴とする。